ダブル選挙 舌戦スタート

右から左へ届け出順

参院選立候補者

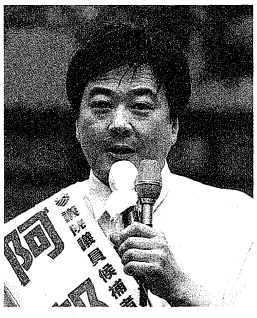
上右から左、下右から左へ届け出順

山本 一太（やまもと いちた）37 元国連職員　自新

有馬 良一（ありま よしかず）45 党県常任委員　共新

角田 義一（つのだ ぎいち）58 法務政務次官　社現

阿部 一郎（あべ いちろう）41 元　県　議　進新



知事選立候補者

最上 進（もがみ すすむ）54 元参院議員　無新

小寺 弘之（こでら ひろゆき）54 知　事　無現

吉村 駿一（よしむら しゅんいち）51 弁 護 士　無新

県内初のダブル選挙となる知事選と参院十七回参院通常選挙が六日、告示された。知事選には、無所属の現職で自民、社会、新進、公明、さきがけの各党が推薦する小寺弘之氏（五四）、無所属新人の最上進氏（五四）の三人、参院選群馬選挙区（定数一）では共産党新人の有馬良一氏（四五）、自民党現職の山本一太氏（三七）、社会党現職の角田義一氏（五八）の四人が立候補届け出、二十三日の投票に向けて十七日間の選挙戦に突入した。知事選は小寺県政への審判と位置付けられ参院選は自民党が候補を一本化しており、社会党が議席を死守するか、新進党が初陣を飾るかなどが焦点。午前八時半からの届け出を済ませた各陣営は梅雨空の下、各地で第一声を放ち熱い舌戦をスタートさせた。

予想の3氏が届け出

吉村候補　税金は福祉教育充実に

「小寺県政は大企業のために湯水のように税金を使って、超高層県庁舎を建て、全国で低水準なのに、いま、県民にそういう議論がはしるのか。県民合意冷厳しく小寺県政を批判。「県庁舎ではなく、私は福祉教育の充実のために税金を使う。人間を大切にすることが基本だ」と強調、支持を訴えた。

小寺候補　政治発想は身近な所で

小寺候補は前橋・群馬会館前で開かれた勢多前橋地区選挙対策の出陣式で、「この四年間、現実を直視し、未来に向かって県民生活が安心して営まれるような政治を心がけ、皆さんのお陰で県政をこつがなく運営できた」とPRを訴えた。

任期中に実施した三歳未満乳幼児の医療費無料化、ゴルフ場の開発抑制、地価監視区域の全面解除、群馬県庁舎建設計画の見直しなど、「県民の実績」を訴えた。

見えない〝対決軸〟

掘り起こせるか無関心層

知事選と参院選が六月、院選は準政権の成立後初めての国政選挙となるため、解散・総選挙を占う前哨戦と位置づけられている。知事選と合わせ、二百万県民にとっては将来の郷土の在り方を決める選択が迫られることになる。

知事選と参院選をめぐっては政党とその支持勢力が複雑に絡み合っている。参院選には民、社会、新進、共産四党から公認四人が立候補、知事選でこのうち自民、社会、新進三党が小寺弘之氏を推薦したため、小寺選対は参院選で戦う三陣営が同居している。

共産党は知事選で推薦候補の吉村駿一氏を立てており、参院選の有馬良一氏とともにオール与党体制の批判を展開している。もっとも、参院選の現職である最上氏は政党の推薦を受けず、県内でも増加傾向にある「支持政党なし」の無党派層をターゲットにしている。第一声などを聞く限り、小寺氏が一期四年間の実績をアピールし、吉村、最上両氏が「県民が不満・苦しんでいる時期に、なぜ県庁舎建設計画の見直しなど、県民の生活の充実を訴える。吉村、最上両氏が小寺氏の「県民の実績」を争点の中心に据えており、今後の展開が注目される。

一方の参院選。自民党単独政権時代の前回（平成四年）は国連平和維持活動（PKO）に対する対応で自民党と社会党が対立したが、今回は同じ与党の立場。第一声で自民の山本一太氏は党攻撃をしていないが、社会党の角田義一氏は新進を批判。これに対し、新進の阿部一郎氏は自民党の政策に大きな差がなくなるので、有権者に対決軸がなかなかわかりづらくなっている」との指摘もある。

阪神大震災、地下鉄サリン事件による安全神話の崩壊、日本経済の先行きの不安…。戦後五十年の節目に当たる今回のダブル選は新たな政治の経済のシステムを構築するための重要な選挙となる。戦後政治を大きく変えた福田赳夫元総理が、「この選挙は『戦争』だ」と言い切ったほどである。死の床にあった福田赳夫氏の訃報速報は、本人の「強い希望」から、ある人や賢人に使うと「易聞えきさく」臨終をかえる＝臨終を迎えるの意。「賢」は「みすのこ」、ゆか、たかゆかの意。死の床にある人の言葉は、「易聞えきさく」と言われる。

連立政権の是非が争点

山本候補　〝弔い合戦〟を前面に

山本候補は前橋市亀里町の県JAビルでの出陣式で第一声。自らのタスキの下に、父親の故嘉雄氏に用意されていたタスキを念はせ「この壇上に立つこと、十八年の父の姿を思い出す。利根川の河川敷で父は『皆さん、の翼で永田町に飛ばしてほしい。向こう側に福田赳夫先生が待っている』と言ってくれた福田先生がおくなりになり南慨恨の極之」と「弔い合戦」を前面に。その上で「父に対する福田先生、そして皆さんのご厚情に報いるために何とか頑張ってもらいたい」と訴えた。

有馬候補　消費税の廃止を強調

県庁前で、有馬候補は「税収対策増税ではなく消費税の廃止を強調。「重税対策運動を二十年間続けてきた。有権者のために消費税はなんとしても廃止したい」と力を込めた。

立候補した動機について、「（消費税廃止の）公約を勝ちにして闘う直ている政治に我慢できない」と説明。「公約を守らない政党、政治家に民主政治を語る資格があるのか、こうした議員にさっさとしたい態度を示そうではないか」と訴えた。

「当たり前のことが当たり前に通る政治への転換」を叫び、公約を守り抜く決意を示した。

阿部候補　改革と責任ある政治を

「村山連立政権の是非が争点」とする阿部候補は、「この四年間、自民党がいろいろ争点」とする阿部候補は、「この四年間、自民党がいろいろ争点」とする阿部候補は、「この四年間、自民党がいろいろ